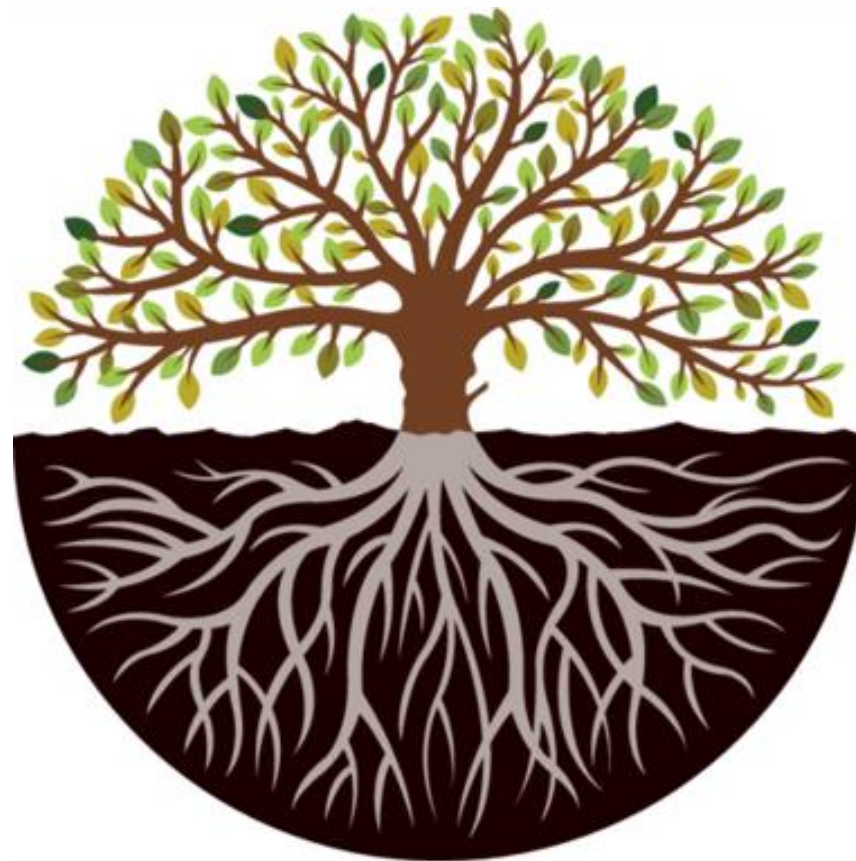




第3次清瀬市教育振興基本計画策定支援業務

中学生インタビュー報告書 — 教育施策と10年後のめざす姿に関する意見聴取

有限責任監査法人トーマツ
令和7年9月22日（月）



目次

インタビューの概要	3
インタビューの趣旨	4
実施日時・場所・実施方法・対象者	4
質問項目	5
インタビューの結果	7
設問ごとのインタビュー結果要約	8
分析・考察	9

1. インタビューの概要

9月上旬に市内5つの中学校に属する生徒会メンバーに対して、対面でインタビューを実施しました

中学生インタビュー概要

趣旨

- 清瀬市の教育施策の目指す姿やまちとして目指す10年後の姿について中学生の意見を聴取すること
- ヒアリング時の写真や質問、得られた回答は、現在策定中の第5次清瀬市長期総合計画や第3次教育振興基本計画の策定にあたって参考にする
- 中学生としても、日頃あまり考えることがない自らの住む清瀬市の将来を考えるきっかけの場にもなりうる

実施概要

- 日程：9月上旬（詳細はP6以降）
- 場所：市内中学校5校（清瀬中学校、清瀬第二中学校、清瀬第三中学校、清瀬第四中学校、清瀬第五中学校）
- 対象：生徒会所属生徒（各校2~3名程度）
- 所要時間：1校あたり30分程度

中学生生徒会インタビューは、第3次清瀬市教育振興基本計画を構成する3つの柱で各1問ずつ実施し、10年後の目指す姿について中学生の意見を聴取しました

質問項目

質問項目

1. 自身の将来や学校教育の充実のため、授業内容や校内環境などに関するご意見をお聞かせください。
2. 学校以外の場所で、どんな大人やコミュニティに関わりたいか、ご意見をお聞かせください。
3. あなたが市長だとしたら、地域のスポーツや芸術・文化活動をもっと盛り上げるために、どんな施策を行いますか？
4. 10年後の清瀬市はどのようなまちになってほしいですか？

中学生生徒会インタビューには未来創造課と教育企画課の職員が同席し、設問や意見に応じて、市の取組みなどを紹介し、着想や意見を深めるきっかけづくりを行いました

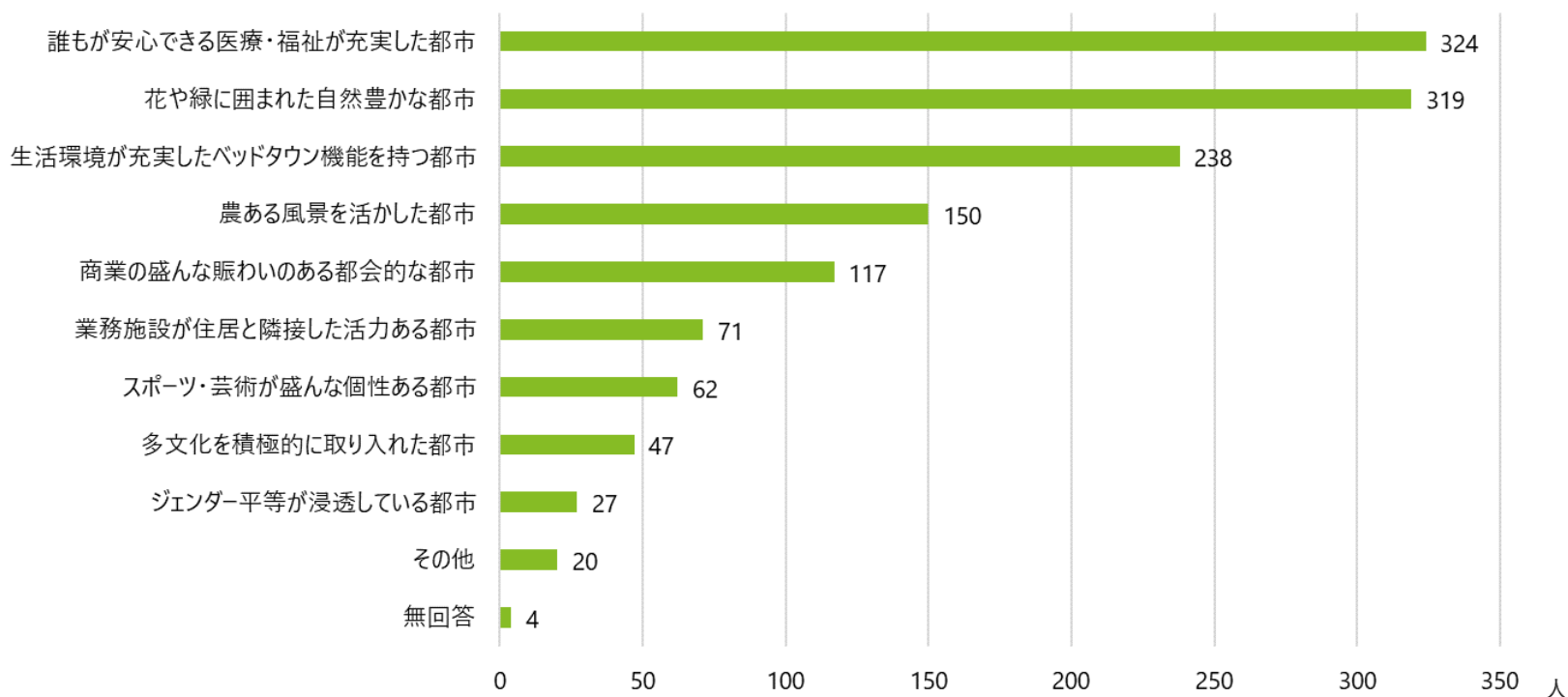
例：設問④ 10年後の清瀬市はどのようなまちになってほしいですか？

考える上でのヒント

※上記の例や以下のヒントに限らず、多様なご意見を歓迎します！

第17回清瀬市政世論調査の結果

Q. 今後、清瀬市がどのような都市になることを期待しますか。次の中から3つまでお答えください。（n=512）



2. インタビューの結果

自習スペースがほしいといった現状感じている問題に加え、特別なことを行う体験会や有名人からの実体験を聞く機会など、今後実現してほしいことに関する回答も多く得られました

設問ごとインタビュー結果要約

Q1.自身の将来や学校教育の充実のため、授業内容や校内環境などに関するご意見をお聞かせください。

- 自習スペースがない。校内など近くにあるとよい
- 授業中に質問しづらい雰囲気がある。家庭学習の際などにタブレットを活用して先生やそれ以外の人に相談できるとよい
- 進路先に選択肢がありすぎて困る。中学生のうちから職業についても学ぶ機会があると進学先の選択にも生かせるのではないか
- 活字に触れる機会が減っているため、年間の読書数をノルマ化したい。デジタル化に対応した授業も重要だが、読書時間も設けたい

Q2.学校以外の場所で、どんな大人やコミュニティと関わりたいか、ご意見をお聞かせください。

- テスト期間中に大学生や地域の先生と関わる場があり、普段からそういう場があるとよい
- 生け花など日本古来の伝統文化など特別なことを行う体験会がしたい。体験を通して大人と関わりたい
- 清瀬市出身の有名人、スポーツ選手からの実体験を聞く機会がほしい
- ボランティアに参加したいと思うが、情報が得られない

Q3.あなたが市長だとしたら、地域のスポーツや芸術・文化活動をもっと盛り上げるために、どんな施策を行いますか？

- 気軽に参加できるスポーツ関連の大会があるとよいと思う。例えばドッジボールなどは誰もが参加しやすい
- 「にんにんポイント」をスポーツや体験にも連動させて貯まるようにすると、活動も地域も活性化するという
- スポーツクラブや文化・芸術に係る取組などの地域活動があまり知られておらず、もっと周知活動が必要だと思う
- 絵画教室が近しくなく、身近にそうしたことを教えてくれる場所がほしい

Q4. 10年後の清瀬市はどのようなまちになってほしいですか？

- 福祉を充実させると教育が滞るのではないかと。教育が整ったまちになってほしい
- コロナ禍は遠く、図書館も減っているため、子どものための場所が多く市内で色んな体験ができるまちになってほしい
- ひまわりフェスのような、市の資源を活用して市外の人を呼び、観光にも強いまちになってほしい
- 農地を手放す人が増えている。ショッピングモールや大型スーパーがあれば、あらゆる世代が楽しむことができ、活性化するまちになると思う

柱別に現状感じている問題と今後実現してほしいことを整理すると、 下記のようなことが求められていると考えられます

分析・考察

柱に関する設問	現状感じている問題	今後実現してほしいこと	総括/考察
柱 1 学校教育の充実 Q1 自身の将来や学校教育の充実のため、授業内容や校内環境などに関するご意見をお聞かせください。	・ 自習室が近くにほしい ・ 授業中に質問がしづらい ・ 進路先に選択肢がありすぎて迷う ・ 机・扇風機などの備品が古い ・ プロジェクターを使うと窓からの光で見にくいことがあるためすべての教室にカーテンを設置してほしい	・ 年間の読書数をノルマ化したい ・ 家庭学習でもタブレットを活用して先生などに相談したい	総括/考察 ■ 授業内容に対する意見よりも環境面に対するニーズが多かった。<u>疑問に思ったことがあればすぐに質問できる仕組みをタブレットなどで行くとともに、学校内や近くで自習するスペースを開放すること</u>も求められている。 ■ 進路先に迷っている、という意見も5校中2校で挙げられた。<u>中学1,2年生のうちに職業や高校について情報を得られる機会</u>があると、選択肢が広がると考えられる。 ■ 教員の負担増にも配慮しながら、教育現場の課題やニーズを継続的に吸い上げる仕組みづくりを構築することが有用。
柱 2 地域による子どもの育ちと学びの支援 Q2 学校以外の場所で、どんな大人やコミュニティに関わりたいか、ご意見をお聞かせください。	・ ボランティアに参加したいが、情報が得られない ・ 小さい子ども用と大きい子ども用の遊具の両方がある公園があると多様な年齢の子どもと一緒に遊べるのではないかと ・ テスト期間中に大学生や地域の先生と関わる場があり、普段からそういう場があるとよい ・ 部活動で地域の人と関わる機会があるがもっと頻繁にあってもよい	・ 清瀬市出身の有名人、スポーツ選手からの実体験を聞く機会がほしい ・ 体験活動と一緒に行うことで、幅広い世代と関わりたい ・ 1人ではなく、何人かで集まって教え合いながら勉強する場所もほしい	■ テスト期間中に大学生や地域の先生と関わる場があると答えた生徒がいた一方、普段地域の人との関わりはあまりないと答えた生徒も多かった。部活動や祭り、また自習室でのボランティア等、<u>子どもたちが参加しやすいコミュニティや場所から地域とのつながりや幅広い世代との関わりを形成する機会の創出が重要</u>だと考えられる。 ■ <u>有名人から実体験を聞く機会がほしいという意見や体験活動と一緒に行いたいという意見も複数校で挙げられた。</u>いずれも子供にとっては新しい学びとなり、成長につながると考えられる。

柱別に現状感じている問題と今後実現してほしいことを整理すると、 下記のようなことが求められていると考えられます

分析・考察

柱に関する設問	現状感じている問題	今後実現してほしいこと	総括/考察
柱3 生涯学習・文化・芸術・スポーツの支援 Q3 あなたが市長だとしたら、地域のスポーツや芸術・文化活動をもっと盛り上げるために、どんな施策を行いますか？	スポーツクラブや文化・芸術に係る取組やイベントの存在自体があまり知られておらず、もっと周知活動が必要	- スポーツ大会など世代間交流を行える機会がほしい - 絵画教室など、大人の知識や技術を伝えてもらう機会がほしい - バスケットコートなど運動する場所がほしい	■ スポーツや文化・芸術に関する世代間交流の機会について、一定のニーズが見られた。一方、イベント等の存在が認知されていない課題が明らかとなった。 ■ 市のイベント等に関する情報は、<u>教員を通じて明示的に生徒に伝えるなど、プッシュ型の情報発信</u>が求められている。
10年後の清瀬市の姿 Q4 10年後の清瀬市はどのようなまちになってほしいですか？	- 駅の老朽化や書店、大型商業施設等の不足など、生活環境に改善の余地がある - 住宅開発などにより農地や緑が減少している - 少子高齢化が進行している中で、医療・介護の支援体制が不十分な面がある - 登下校時の道が暗く、子どもが安心して歩けない場所が存在する	- 商業施設や書店、スーパー等が入った駅周辺のリニューアルをしてほしい - 農地や緑を残し、直売所など清瀬ならではの魅力を継承していきたい - ひまわりフェスのような地域資源を活用した観光振興や市外から人を呼び込むイベントの開催	■ 特に、<u>農地や自然環境の保全と都市的利便性の向上が求められており</u>、これらの二律背反的な施策を両輪で進めていく必要がある。 ■ また、少子高齢化の流れに適応した形での支援体制の充実や地域の安全・安心を守る施策、地域資源を活かした取組を求める声も存在。 ■ これらの施策を推進していくためには、<u>庁内担当課や住民との合意形成や、行政・民間・地域団体の連携が不可欠</u>。 ■ 今回のインタビューのような、次世代を担う子どもたちを中心に、市民一人ひとりが主体的にまちづくりについて考える/参加する場を設けることで、円滑な合意形成やまちづくりの形成に繋がることが期待される。